

部 長 東 岡 博
研究主任 佐 野 厚 子
部 員 数 5 2 名

1 研究主題

子どもや学級の成長を目指した指導方法の研究
—小学校・中学校が連携した指導を目指して—

2 はじめに

北里中と北里小では、さまざまな交流を通して、共同で児童生徒の育成をはかる取り組みをしている。交流行事に加えて、独自にお互いの授業に参加する取組を5年間続けてきている。この2つの取り組みが児童生徒に相乗効果をもたらし、児童生徒の大きな成長につながることをねらっている。今年度は、感染症拡大を避け、ほとんどの交流は中止したため、これまでの取り組みについてまとめてみた。

3 研究経過

(1) 交流行事（今年度の交流行事は全て中止となった。）

中学生の企画と運営による7月の七夕会、9月の宿泊学習または10月の交流遠足、12月の市内合同クリスマス会を予定していた。

(2) 授業交流

5年前から、6月と1月の北里小授業参観に北里中学生徒参加、2月に北里小児童が北里中を見学、授業に参加を始めた。6月と1月の北里小授業参観は日曜日に実施したため、中学生の参加は自主参加とした。

ア 中学生は自主参加だが、小学生の手伝いや世話を率先して行う様子が見られた。

イ 小学生は中学生を見て、望ましい中学生像を具体的に思い描くことができた。

ウ 小学生の保護者が中学生の様子を間近で見ることで、わが子の未来の姿を想像することができた。また、特別支援の目指している教育に理解を示す良い機会となった。

4 研究の成果と課題

中学生にとって、小学校の授業に参加して、礼儀正しい言葉遣いやりっぱな振る舞いをする中で、小学生に喜ばれたり、小学生の保護者から褒められたりしたことで、自信をもつことができた。小学生にとっては、望ましい中学生の姿を実際に見ることで意識が変わり、学習にも意欲的に取り組むようになった。

こうした小学校と中学校が連携した指導が、学級の温かい雰囲気作りにつながっていた。また、学級の温かい雰囲気が、一層子どもの成長を促した。

今後も継続して行っていきたいが、今年度は感染症の広がりの影響で、中断したままになっている。今後、交流を続けていく上で、安心安全を確保するために、どんな工夫をしていくかを改めて考える必要がある。